



男女ともに働きやすい、職場づくりを目指して
 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
 男女共同参画室



News Letter

ニュースレター

Contents

- 活動報告
- アカデミックアシスタント制度を利用してvol.8(鳥山助教)
- スタートアップ研究費を受給してvol.8(崔助教)・vol.9(新藏教授)
- アカデミックアシスタント(AA)制度等利用者・AAの活躍
- 男女共同参画室の7年間「見える化」ポスター公開
- 「H28教職員のワークライフバランスと男女共同参画推進に関するアンケート調査」分析結果公表
- 数字で見る本学の男女共同参画

活動報告 2017年4月～2017年6月

2017年5月13日(土)

／ 参加しました! ／

オープンキャンパス

研究生生活紹介 - 女子大学院生version



大学院生活紹介PDFを公開した2017年4月10日(月)～5月13日(土)の約1ヶ月間に、約700人の方が参画室のURLに新規にアクセスしました。教職員向け託児では、お預かりした5名の子どもたちが、託児室に新しく入ったおままごとキッチンやお人形で楽しく遊びました。

2017年5月25日(木)・26日(金)

／ 参加しました! ／

Gender Summit10



一橋講堂(東京都千代田区)にて開催されたGenderSummit10(主催:国立研究開発法人科学技術振興機構・日本学術会議等)で、ポスター展示を行いました。また、27日に行われた女子中高生向けサテライトイベントでも、ポスター展示と大学資料・グッズ配布を行いました。



Lunch Meeting



ランチミーティング

2017年

5月9日

6月6日

開催しました!

3研究科の教員や各部署の教職員が参加し、ワークライフバランスや男女共同参画室の活動などに関する意見交換、情報交換をしています。所属も職位もさまざまな方々と交流できる機会ですので、興味のある方はランチを持ってお立ち寄りください。

日時 原則毎月第1火曜日 12:30-13:30

場所 事務局棟1階男女共同参画室

【中面】インタビュー

アカデミックアシスタント (AA)制度を利用して

本学では妊娠、出産、育児に関わる研究者の時間不足を解消し、これにより最先端研究との両立と成果の向上及びワークライフバランスの向上に資することを目的として、研究者の指示に従って研究・実験を補助するアカデミックアシスタントの配置を行っています。

祝

平成29年度

科学技術分野の文部科学大臣表彰
「若手科学者賞」受賞

vol. 8

バイオサイエンス研究科
神経システム生物学(稲垣研)

鳥山 道則 助教
AA 山本優香さん

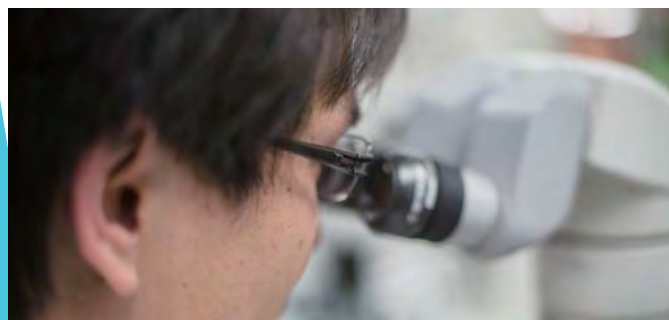
子どもの体調不良時に、 進めなければならないルーチンワークを依頼できる

私には保育園に通っている二人の娘(5歳、2歳)がおり、平成28年4月よりAA制度を週10時間利用させてもらっています。AAの山本さんには遺伝子のクローニングや発現ベクターの構築にかかる実験のルーチンワークをお願いしています。

本学から比較的近いところに住んでいるのですが、同じく研究者である妻が通勤に1時間半近くかかることもあって、朝の送りと夕方のお迎えは私が担当しています。また、子どもが熱を出して、保育園から迎えに来るようにと呼び出しがあったときも、私が行きます。そうすると仕事を中断せざるを得ず、去年はインフルエンザやウイルス系の病気で1週間くらい休まないといけない期間もありました。長期の場合は妻と交代しますが、いずれにせよ、子どもの体調不良時は大学に出て来なくなります。

このようなとき、進めなければならないルーチンワークをAAの山本さんをお願いできるので、ありがたいです。山本さんは、もともと本学で研究技術員を長く勤めてこられたベテランの方なので、細かい指示をしなくても任せられ、たいへん助かっています。

本制度への意見ですが、配置時間数について、女性の研究者には週20時間配分されたと聞いており、できれば週20時間の支援をいただきたいなとは思っています。



ウェブサイト
「それぞれの働き方」
vol.09もチェック!

女性研究者スタートアップ研究費 (教育研究助成)を受給して

vol. 8

情報科学研究科 ソフトウェア設計学(飯田研)

崔 恩滯 助教

本学の公募情報が出ていることを知ったとき、情報科学研究科で助教として働いた経験のある夫に相談をしたら、研究環境がよいことはもちろん、女性研究者支援が充実していることも理由に応募を強く勧められました。特に、出産や子育てなど女性の支援が多いのがNAISTに応募した理由の一つでした。

本研究費は主に旅費として使わせていただきました。前職が文系の職場で、着任当時、私の専門分野の最新動向がよくわからなかったこともあり、さまざまな学会に参加しました。私の専門分野は、パソコン及びモニタがあれば研究ができ、準備しなければならない専用設備が必要というわけではないのですが、本研究費のおかげで、情報収集と、同じ分野の研究者らとの意見交換の機会を得られてよかったです。

助成期間は1年間よりも2年間のほうが有り難いですね。着任したばかりの頃は、ばたばたしていたので、もうすこし余裕があればよかったですと思います。



WEBサイト
「それぞれの働き方」
vol.10もチェック!



vol. 9

バイオサイエンス研究科 応用免疫学(新蔵研)

新蔵 礼子 教授

本研究費は用途に制限がないので、とても使いやすかったです。たとえば、一部を設備修繕費として使わせていただきましたが、改修工事をするのは本学への着任前には予定していませんでした。やはり、実際に研究室に入ってみたいと何が必要かわからないものなので、本研究費を利用できてとてもよかったです。書類の手続きも必要最小限で、忙しい最中にたいへん助かりました。本制度について改善いただきたいと思ったことは何もないです。



WEBサイト
「それぞれの働き方」
vol.11もチェック!

男女共同参画室WEBサイトで連載中

本学で活躍する研究者へのインタビュー「それぞれの働き方」

http://www.naist.jp/gender/contents/message/interview_list.html



Information

男女共同参画室は、利用者の活躍に支えられ、本学構成員の仕事と生活の両立を支援する各種制度の充実を、さまざまに図っています。

参画室HPで公開中!

おめでとうございます!

アカデミックアシスタント(AA)制度等 利用者の活躍

2017年
3月

バイオサイエンス研究科笹井准教授のAA 八塚敦輝さん(博士前期課程2年)が、平成28年度のバイオサイエンス研究科最優秀学生賞(矢野賞)を受賞

2017年
4月

バイオサイエンス研究科鳥山道則助教が、平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」を受賞

2017年
5月

情報科学研究科Hong助教のAA Nguyen Duc Phucさん(博士後期課程2年)が、国際会議2017 the 9th International Conference on Future Computer and Communication (ICFCC 2017)においてBest Oral Presentation Awardを受賞



本学に男女共同参画室が設立されたのは2009年9月。これまでの7年間の活動実績を「見える化」したポスターを参画室HPにて公開中です。

男女共同参画室の 7年間「見える化」ポスター公開

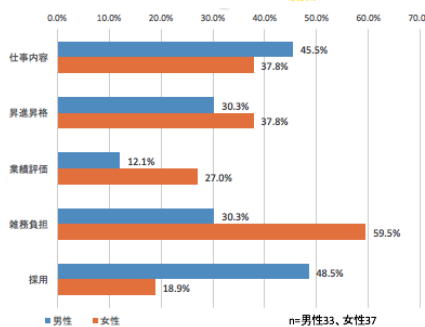
アンケート
結果の一例

「H28教職員のワークライフバランスと男女共同参画推進に関するアンケート調査」分析結果公表

昨年7月に実施した上記アンケートの結果を4月に公表しました。性別、年代、任期の有無、裁量/定時勤務、子どもの有無、介護経験の有無別に分析をしています(有効回答数268票、有効回答率38.7%)。

報告書全編は下記にて閲覧できます。
<http://www.naist.jp/gender/pdf/h28wlbsurvey.pdf>

性別による処遇の差が「あると思う」「少しあると思う」と回答した70名に、差を感じる場面について尋ねました!



女性の多くは、**雑務の負担(59.5%)**を、男性の多くは、**採用(48.5%)・仕事内容(45.5%)**を選択しました。

2017年5月現在

数字で見る /

男女共同参画

- 研究科別の女性教員率
情報**5.5%**、バイオ**20.8%**、物質**8.2%**
- 女子学生の在籍割合
情報**11.6%**、バイオ**36.2%**、物質**19.9%**
- 女性職員率
29.3%

